ＳＭＣ金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain　ＳＭＣ　豊島 健治

長崎県民信用組合

（非常識を常識に―挑戦する小金融機関）

長崎県は佐世保市にある長崎県民信用組合、通称「けんみん」という信用組合が世間の注目を集めるようになったのは、銀行を中心とする我が国の金融機関が皆同じ顔つきをしてどれも特徴がなく、しかも総崩れの様相を呈していることと無関係ではない。実際、金融関係者の取材が引きも切らず、今では都市銀行の一支店分の規模に過ぎないこの地方の一介の信用組合が全国区的存在となってしまった。

この奇妙な構図こそ、我が国の金融システムの置かれている現状を雄弁に物語るものと云えよう。今回は、この興味深い材料を提供している「けんみん」を取り上げてみる。

まず私の資料提供要請に対し快く応じてくれた姿勢に、この「けんみん」という金融機関の自信と力強さを感じた。「けんみん」とは縁もゆかりもない千葉の片田舎の人間からの無遠慮な要請に対し、親切な解説付きの大部の資料が送られてきた。どちらかと云うと外部の取材に対して疑い深く神経質に対応することの多い金融機関一般と異質の姿勢は、前述したように「けんみん」の強い自信の表われと見ていい。

この「けんみん」こと長崎県民信用組合の特色は幾つかあるが、私の観るところ我が国の金融機関の将来像を先取りしているしている所に最大の特色があるように思う。

まず、業務の特化が行われている。法人向け融資は能力がないからと基本的に止め、個人向け業務（消費者金融をイメージ）に特化している。信組の武器と云われる集金業務や自治体の公金事務すら廃止し、全ての力を個人向けに集中している。正に「選択と集中」が実行されている。

そして、その結果ユニークな商品を開発している。驚くべきは、多重債務者のローン相談に応じ、彼らのために３０年ローンや保証分割ローン等が商品化されていることである。また、組合員に対しては金利３％の三角普通預金（年金受給者は４％）や５％の定期預金を用意している。この低金利時代にビックリする高金利預金である。勿論これら高金利預金は１人当りの預入限度額が定められているが、その高金利支払能力が組合の業績に裏付けられているのが強みだ。

また、サービス業の基本が実行されている。正月三が日を除いて１年３６２日間営業し、組合員サービスを徹底している。高齢化が進んでいる地域性に配慮し「ベテランズクラブ」という高齢者支援活動も行っている。

加えて、「信用」を業とする金融機関にとって生命線である経営内容のディスクロージャーに積極的である。送られてきたディスクロージャー誌はＡ４版１５頁の立派な小冊子で一般の人にも判り易く説明されている。９５年決算時に業界の強い反対を押しきって、信組業界で初めて不良債権を含めたディスクロージャーに踏み切ったのは有名な話である。そして、義務づけられてもいない監査法人の監査も導入すると云う。

これらの特色を持つ「けんみん」が地元でどのように評価されているかは判らないが、少なくとも預貸金の計数動向を見る限りかなりの評価を得ているようだ。特に業績に裏付けられた高金利預金は地元民を喜ばせていると思う。

ここの経営者は「ビッグバンは千載一遇のチャンス」と公言して元気一杯のようだが、このような金融機関経営者が日本にいたことにある種の救いを感じるほどである。

この「けんみん」が現在の方向に大きく舵を切ったのは、多くの金融機関がバブルに浮かれていた８９年であったと云う。当時、弱小零細金融機関が生延びて行く道を真摯に模索した結果が「生活者金融への特化」であったと云う。業界や当局の指導という障害物を排除し、「選択し、削ぎ落とす」ことを繰り返すことで現在の「けんみん」が出来あがったと云う。それまでは何の変哲もない極く普通の信組に過ぎなかったのだ。

ところで、企業経営に必要な資金の貸出を行わない「生活者金融への特化戦略」は、中小企業経営者には面白くない戦略であろう。だが、こうした特化戦略を志向する金融機関の出現とその成功は、今後「中小企業金融への特化戦略」に経営資源を集中させる金融機関の出現を予感させるものである。だからこそ、この「けんみん」に注目したいのだ。

私は、地域金融機関が揃いも揃って保証協会保証付融資に傾斜する等、依然として横並び行動に自らの姿を埋没させている現状に、何か空しいものを感じている。だからこそ、九州の一遇で異彩を放っているこの「けんみん」の意気健高に拍手喝采を送りたいのだ。

TEL. 0438−53−6092 FAX. 0438−53−6096
E-mail smc_toyo@hi-ho. ne. jp

《転載・複製等はご連絡下さい》